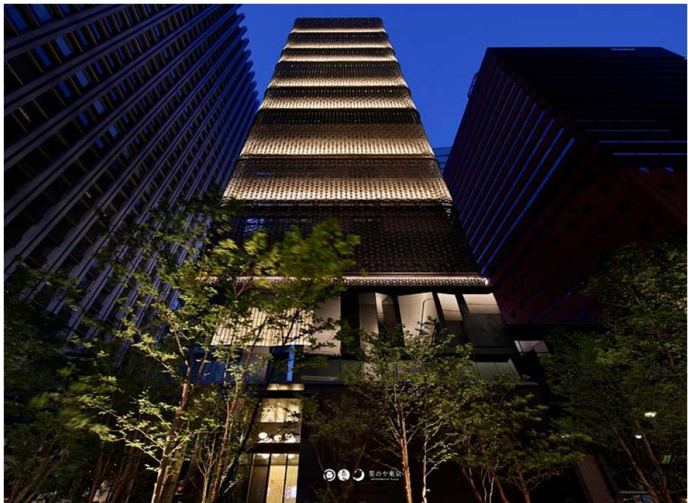
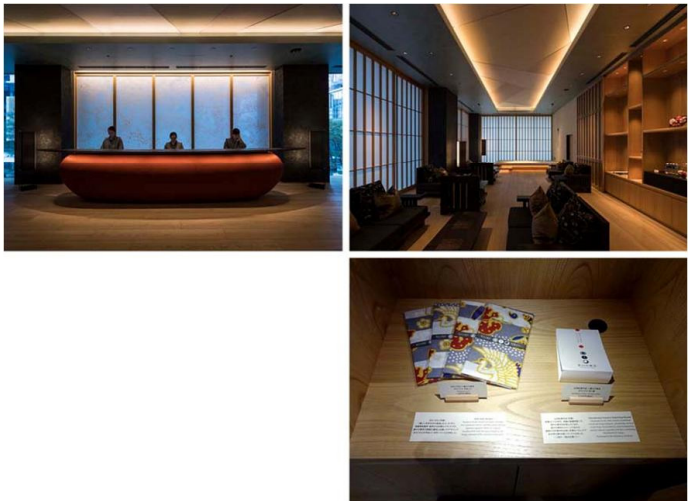


外観



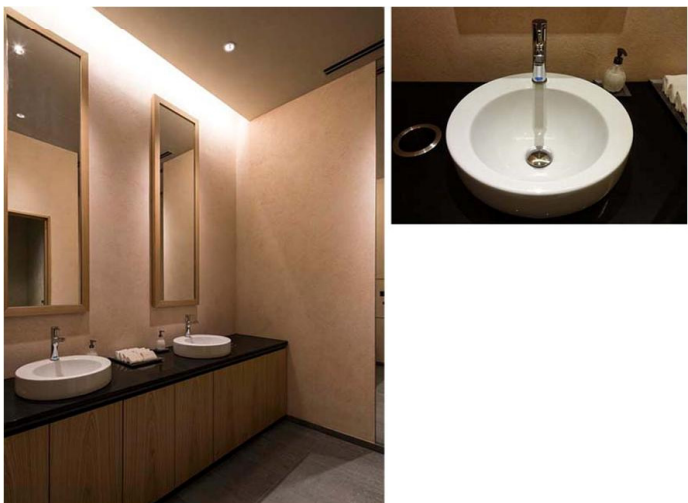
遠景と近景では印象を変える、江戸小紋の着物地から発想した外装で、麻の葉くずしをイメージした柄のスクリーンで覆われている。角に重箱のようなアールをつけて日本らしい繊細さも加味した。

2Fレセプション・ロビー



エレベーターを降りると正面にレセプション。ロビー奥には、雅楽などを披露する量の舞台があり、お酒を飲みながら観覧できる。ロビーには、購入可能な星のや東京オリジナルアイテムもディスプレイされている。

2F女性トイレ 洗面



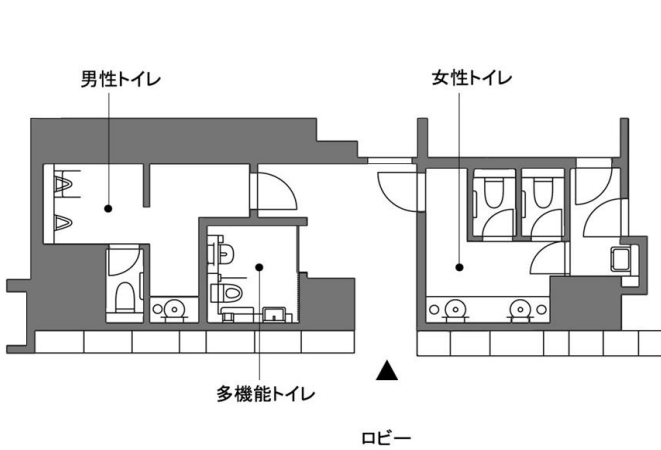
軽やかなライト系木目と黒でまとめられた、上品な落ち着きを感じさせる空間。海外製洗面器と水栓金具を採用。

玄関



都心に日本旅館を創出する玄関の仕組みとして、宿泊者は玄関で靴を脱ぐ。間口は狭く、奥に長い、高さ5.5メートルもある畳敷きの玄関。左手は天井いっぽうに作りつけた下駄箱。見せる収納としてデザイン。

2Fトイレ図面



レセプションである2Fには、女性トイレ、男性トイレ、多機能トイレを配置。パブリックトイレは、乾式清掃とし、1時間に1回、清掃チェックを行っている。

2F女性トイレ 大便器ブース



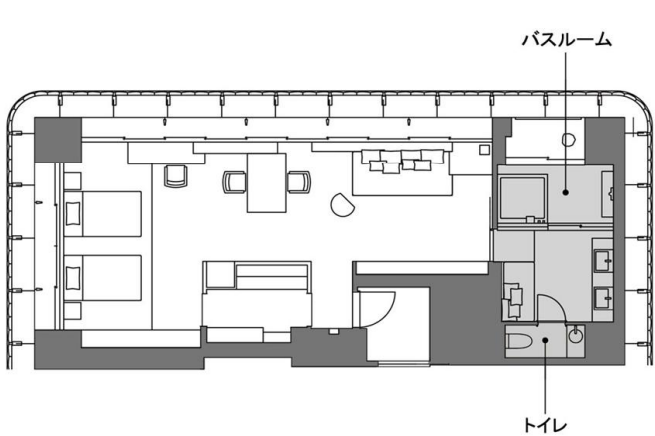
ウォシュレット一体形便器を採用し、デザイン性と快適性を提供している。ブース2ヶ所の内1ヶ所は手すり付となっている。

2F男性トイレ 小便器



照明効果を計算されたシックな空間。小便器は、清掃性と節水性の高いマイクロ波センサー付壁掛小便器を採用、1ヶ所は手すり付。

3F～15F客室「菊」平面図



星のや東京で最も広い3名定員の客室「菊」は、客室「桜」「百合」の約2倍の広さとなっている。

3F～15F客室「菊」 浴室洗面



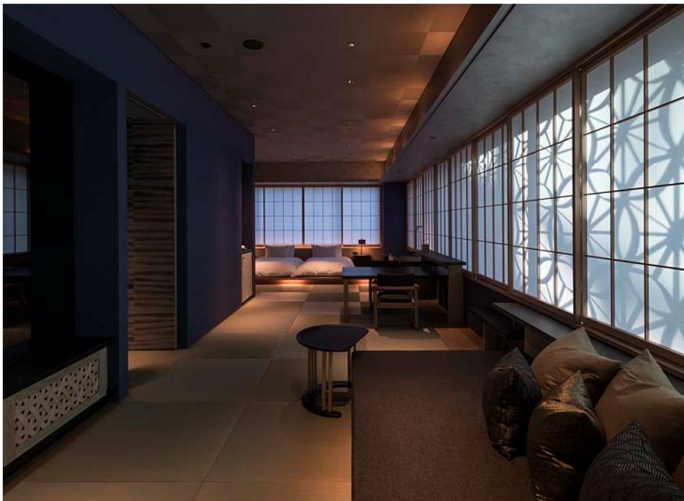
和のくつろぎを醸し出す趣向として、バスルームの奥には、小さな坪庭を設えている。

2F多機能トイレ



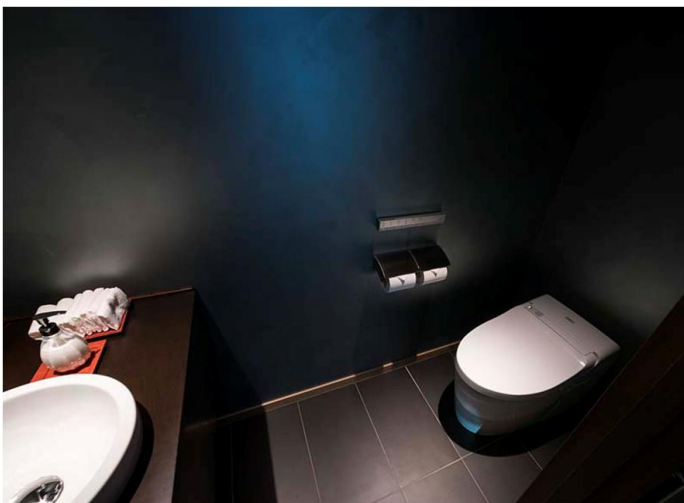
多機能トイレには、多機能トイレバックのほか、子ども配慮としてベビーチェアを採用。自動扉にはビクトサインほか、和英2ヶ国語で開閉のガイド表示がされている。

3F～15F客室「菊」



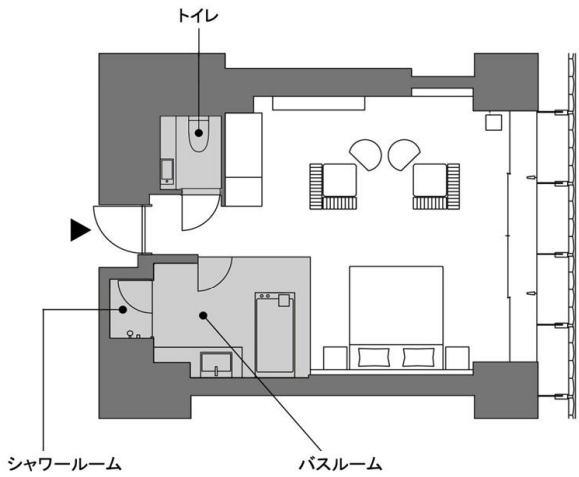
障子に映る麻の葉くずしの外装パターンは、季節や時間帯によって変わる陽の光により、その趣が変化する。

3F～15F客室「菊」 トイレ



大便器は、日本製が一番使いやすいという「星のや」の知見から、ウォシュレット一体形便器を採用。洗面器・水栓金具は海外製を設置。

3F～16F客室「桜」 平面図



2名定員の客室「桜」は、水まわりと客室の仕切りに調光ガラスを採用して、開放感のある客室となっている。

3F～16F客室「桜」 浴室



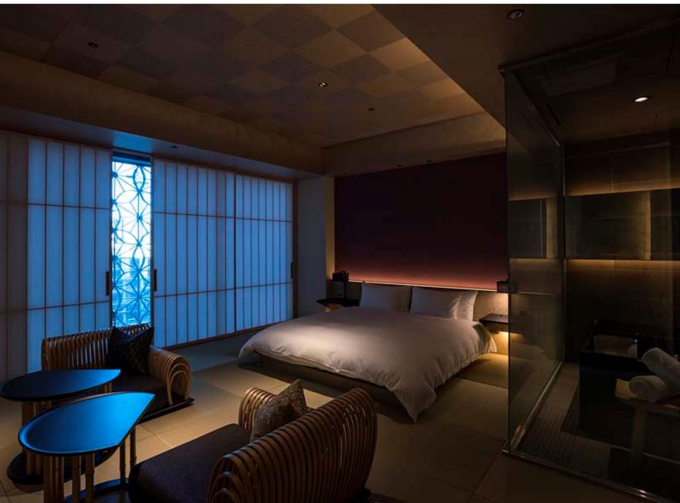
バスルームから、室内を見てもガラスの仕切りのため、開放感がある。肩までつかれる日本式浴槽は、オリジナルの人工大理石浴槽を設置。

3F～16F客室「桜」 トイレ



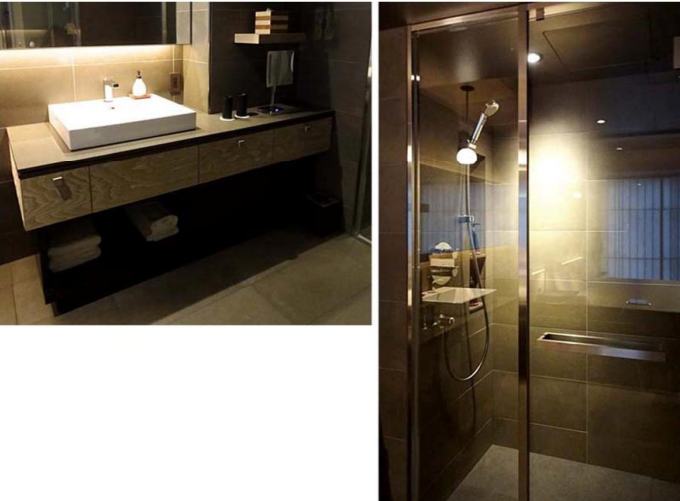
シンプルで上質な空間に、清掃性・デザイン性の高いウォシュレット一体形便器を採用。

3F～16F客室「桜」



いわゆるハイグレードホテルとは趣の異なる内装。室内の家具は高さを工夫して、和室に合わせた低い視線になるように配慮している。

3F～16F客室「桜」 洗面・シャワールーム



日本的な入浴方法は天然温泉の大浴場で味わっていただく和割り切り、客室「百合」「桜」は洗い場をなくし、独立したシャワールームを設置。海外製の洗面器・水栓金具を設置。

3F～16F お茶の間ラウンジ・廊下



各フロアには客室以外に「お茶の間ラウンジ」と名づけたスペースを設けており、ティータイムなど宿泊客のセミプライベートなくつろぎの場所となっている。畳敷きの廊下が、歩き疲れた足にやさしい設え。

17F大浴場 脱衣室



化粧や身づくろいしやすいように、鏡に照明が配されたカウンター。内1ヶ所は洗面器を設置している。

17F大浴場



露天風呂に繋がっている最上階の大浴場では天然温泉(大手町温泉)が楽しめる。大浴場を利用できるのは宿泊客のみとなっている。

17F大浴場 脱衣室



大浴場に不慣れな海外からの宿泊客に向けて、入浴マナーについて、英語と中国語の2ヶ国語表記で注意喚起している。

17F大浴場 露天風呂



内風呂の奥には天井が高く抜けた露天風呂。周囲のビルからの視線を避けて、東京の空が見える。

建築概要

名 称	星のや東京
所 在 地	東京都千代田区大手町1-9-1
施 主	三菱地所株式会社(再開発施行者)
設 計・監 理	三菱地所設計・NTTファシリティーズ 設計管理共同企業
旅 館 計 画・ 内 装 設 計・ 外 装デザイン協力	東 環境・建築研究所
施 工	戸田建設(建築)・斎久工業(衛生)
竣 工 年 月	2016年4月

水まわりの特長

<建物の特徴>

「星のや東京」は、個性あふれる宿泊施設を創出する星野リゾートが、東京大手町のオフィス街に、「塔の日本旅館」をコンセプトに開業。庭に平屋木造という伝統的な造りではなく、また都心のホテルにみられる複合ビルの高層階でもない、地上18階建ての縦に伸びる独立した1棟建ち。1Fがエントランス、2Fにレセプション、3～16Fまでに計84室の客室という構成。玄関で靴を脱ぎ、畳に上がるという日本旅館の文化を表現するスタイル。畳の感触を楽しめる床材として用い、玄関から先は宿泊客以外は入れず、館内ほとんどが畳敷きでつながっている。細部に至るまで、日本の宿としての高い質感を誇り、外国人宿泊客からも「東京で日本を感じた」と評価が高い。

<水まわりの特長>

外国人宿泊客を想定しながらも、星のやでは、複数人宿泊する際にも使いやすくというこだわりを込めて、客室トイレを浴室・洗面と別置。また、「星のや東京」では、日本的な入浴の楽しみは、温泉大浴場で味わってもらおうとこととし、客室「桜」「百合」はそれぞれ独立したシャワールームと浴槽を設置。客室「菊」では、洗い場を設けた浴室に、肩までつかれる深さのある日本式のパールフォームを持つ、黒色人工大理石製のオリジナル浴槽を採用。清掃性・快適性など、随所に「星のや」が培ってきたノウハウを結集した。